

通 教 月 報

診 療 情 報 管 理 研 究

令和 3 (2021) 年 6 月 号

編 集
発 行 人

武田 隆久

〒102-8414 東京都千代田区三番町 9-15
一般社団法人 日本病院会 教育部教育課
TEL 03-5215-6647 (受講生専用)
FAX 03-5215-6648 (受講生専用)
URL <https://jha-e.jp/>

受付時間

10:00~17:00

(ただし、土・日・祝祭日、年末年始は除く)

発行日

毎月 1 日

100 年後も役立つ診療記録を

吉住 秀之

独立行政法人国立病院機構都城医療センター 院長

診療情報管理士教育委員会 委員

基礎課程小委員会 委員長

令和元年に始まったコロナ禍のいまだ禍中にある現在から遡ること約 100 年、史上最悪の感染症と呼ばれるインフルエンザのパンデミック（いわゆるスペイン風邪）に世界は見舞われました。日本でも猛威を振るったこの感染症を細大漏らさず記載した記録を私たちは、読むことができます（『流行性感冒「スペイン風邪」大流行の記録』、内務省衛生局編、平凡社刊）。その書物には、流行状況や死者統計、予防措置などの疫学的事実とともに、流行性感冒の病理解剖所見も記載され、「諸報告を通覧し各学者間に共通して「インフルエンザ」に最も屢々見る変化なりとするものを総合し摘録記録することとせり」として、顕著な変化を認める呼吸器系統から書き始められています。人類が経験したことのなかった病疫に対して、客観的に記録を残し、後世に伝えることの大切さをこの書物は教えてくれます。

診療情報管理士の皆さんが常日頃接している診療記録 Medical Record の“Record”（記録）の語源は、ラテン語の“再び”を意味する接頭語“re-”と“心 cor”に求められます。コウモリからヒトへと感染することで始まった SARS-CoV-2 がもたらした厄災は、多くの人々の心に刻まれました。この心に残された痕跡を記憶の中の心象だけに留めていれば、時と世代を経るにつれ、やがて曖昧模糊としたものとなり、ついには風化していくことでしょう。免疫細胞がウイルスの凶暴さを記憶し、次の襲来に備えるように、私たちは感染症の詳細を文字にして記録して後世に伝えなければなりません。「記憶」をコード化して「記録」に変換することで、記憶は確かなものとなり後世の批判と評価に耐える遺産となります。スペイン風邪が流行した当時は、まだ診療情報管理士という職種はなく、1932 年に米国で初めて Medical Record Librarian（現在の登録医療情報管理士 Registered Health Information Administrator）として誕生します。その意味で今回のパンデミックは、「診療情報管理士」という職種が経験するパンデミックとしては 2 回目*といえます。

様々な職種が一人の患者の診療録に記載していくデータをコード化していくのを担う中核的職種である診療情報管理士の皆さんは、現在進行形である歴史的パンデミックの記録を日々刻んでいるということを忘れずに、この医療記録を後世に正しく残していただくことを切に希望します。

*WHO が「パンデミック」という表現を使用したのは 2009 年の新型インフルエンザの流行時でした。コロナウイルス感染としては今回が初めてですが、「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」のように正式な手順を経て使用されたものではありません。

